

中世の野々市

中世の野々市は、北陸を通る大道「北陸道」と、大野湊（金沢市）から白山本宮（白山市）を結ぶ「白山大道」がちょうど野々市で交差することから、交通の要でした。

また、富樫氏は加賀国の守護所をおき野々市は政治経済の中心地となりました。



中世の野々市を通った人々

中世の時代は、貴族や武士など、経済的に豊かな人々が旅に出ていたようです。野々市はどんな人が通って行ったのでしょうか。記録からみてみましょう。

画家・雪舟と富樫氏

桃山時代の画家・長谷川等伯（1539～1610年）が見聞きした様々な談話を集めた書物『等伯画説』の中に、雪舟（1420～1506年）が富樫氏のもとを訪れ、馬の絵を描くことをすすめたという記事が残っています。また、雪舟に同行した等春（等伯の父の師匠）はその後3年の間野々市に滞在したといわれています。

冷泉為広の記録

延徳3年（1491）3月、前管領であった細川政元（1466～1507年）が越後（現在の新潟県）に向かう旅に同行した冷泉為広は、「稲荷野」の社を拝み、「布イチ」で大乗寺を見たと記しています。越後からの帰路にも「布市」で昼休みをとったとあります。